ファクトシート　マラウイ

気候の非常事態に対応し、ネットゼロエミッションと気候変動に強い開発を達成するための、国が決定する貢献の活用

From
the People of Japan

国名：マラウイ

プロジェクト名：気候の非常事態に対応し、ネットゼロエミッションと気候変動に強い開発を達成するための、国が決定する貢献の活用

実施期間：2022 年 3 月～2023 年 3 月

パートナーシップ：天然資源・気候変動省環境局、エネルギーおよび地方自治省、日本大使館、国際協力機構（JICA）マラウイ事務所、日本企業、NGO

予算：382 万 7,726 米ドル

開発課題

「国が決定する貢献（NDC）」では、エネルギー部門の排出量の割合が 2017 年の 25%から、2040 年には約 57%に増加すると予測しました。人口の約 90%が在来型バイオマス（薪や木炭）をエネルギー源として利用しており（マラウイ政府、2018 年）、気候と環境の両面で影響を及ぼしています。電気へのアクセスは非常に限られています（JICA マラウイ事務所の 2018 年の推計では 10%）。エネルギー需要のためのバイオマスへの高い依存は、森林被覆の前例のない減少に寄与し続けており、ひいては温暖化ガス排出に大きく寄与しています。

農地や居住地の拡大、木炭生産、燃料用木材の採取や持続不可能な木材生産に起因する森林破壊と土地の劣化は、自然資本を減少させ、排出に寄与します。

このプロジェクトで期待される成果の達成は、中央政府、行政区、地方自治体および受益者コミュニティの協力の度合いにかかっています。液化石油ガス（LPG）や改良型調理用コンロなどの新技術を市民が受け入れるかが、依然として課題となっています。

目的

このプロジェクトは、UNDP の「気候の約束（Climate Promise）」に基づき、クリーンで安価なエネルギーへのアクセス改善、生態系と景観の回復、気候変動に強い農業システムを通じて、NDC の実施を支援するものです。

プロジェクトの成果

成果 1：環境緑化につながるエネルギーに関連した気候変動に強いインフラ技術の導入と実施を拡大すること

成果 2：生態系管理の向上につながる森林景観回復措置の実施を強化し、気候変動に強い農業慣行を改善すること

SDGs への貢献

このプロジェクトは、SDGs の目標 7、13 および 15 に貢献します。